英文法 L01 第 44 講 時・理由・条件・譲歩の副詞節

学習目標

- 副詞節と主節の関係を理解し、英文の中でそれぞれを見分けることができる。
- when・because・if・although が表す「時・理由・条件・譲歩」の意味関係を理解し、文脈に合う接続詞を選ぶことができる。
- 副詞節を主節の前後に置くときの語順と、基本的なカンマの使い方を説明できる。

1. 副詞節とは何か

定義

副詞節とは、主節に「いつ」「なぜ」「どのような条件で」「どのような予想に反して」といった情報を加える節のことである。

この講で扱う基本的な節は、主語と動詞を含む語のまとまりである。文の中心になる節を**主節**、ほかの節に従属して働く節を**従属節**という。副詞節は従属節の一種である。

解説

次の英文を見てみよう。

I stay home when it rains.

主節 [主節]: “I stay home”

副詞節 [副詞節]: “when it rains”

接続詞 [接続詞]: “when” / parent: 副詞節

私は雨が降るとき、家にいる。

この文は、次の 2 つの節でできている。

主節：I stay home

「私は家にいる」という文の中心部分である。

副詞節：when it rains

「雨が降るとき」という情報を加え、主節の出来事がいつ起こるかを示している。

副詞節は、when・because・if・although などの**従属接続詞**によって導かれる。従属接続詞とは、従属節を主節に結び付け、その意味関係を示す語である。

when it rains の中にも、主語 it と動詞 rains がある。ただし、when it rains だけでは「雨が降るとき」という内容にとどまり、この文では主節と結び付いて初めて伝えたい内容が完成する。

副詞節を読むときは、接続詞の意味だけでなく、**副詞節が主節にどのような情報を加えているか**を考えることが大切である。

©ミライコーチング

2. 時を表す副詞節：when

定義

when は「〜するとき」という意味を表し、主節の出来事が起こる時を示す副詞節を導く。

解説

対訳

I wash my hands when I get home.

私は家に帰ったとき、手を洗う。
主節は I wash my hands（私は手を洗う）、副詞節は when I get home（私が家に帰ったとき）である。

手を洗うという行動が、いつ行われるのかを副詞節が説明している。

when には疑問詞として「いつ」という意味もあるが、ここでは疑問文を作っているのではなく、2つの節をつなぐ接続詞として働いている。

時を表す副詞節では、主節と副詞節の出来事が時間的にどのような関係にあるかを読み取る。

なお、未来の出来事を表すときも、時を表す when 節の中では通常、現在形を使う。未来表現の詳しい規則は第 20 講で扱ったとおりである。

3. 理由を表す副詞節：because

定義

because は「〜なので」「〜だから」という意味を表し、主節の出来事が起こる理由を示す副詞節を導く。

解説

対訳

I stayed home because I was sick.

私は体調が悪かったので、家にいた。
主節は I stayed home（私は家にいた）、副詞節は because I was sick（私が体調を崩していたので）である。

家にいたという行動について、「なぜ家にいたのか」という理由を because 節が説明している。

because は、理由と結果の関係を読み取るときの基本的な接続詞である。主節に書かれている出来事に対して、because 節がその理由を示しているかどうかを確認しよう。

4. 条件を表す副詞節：if

定義

if は「もし〜ならば」という意味を表し、主節の出来事が成り立つ条件を示す副詞節を導く。

解説

対訳

If it rains tomorrow, we will stay home.

もし明日雨が降れば、私たちは家にいるだろう。
副詞節は If it rains tomorrow（もし明日雨が降れば）、主節は we will stay home（私たちは家にいるだろう）である。

この文は、明日雨が降ることを事実として述べているのではない。「雨が降る」という条件が成り立つ場合に、家にいるという予定を述べている。

because と if は、どちらも 2 つの節の関係を示すが、意味は異なる。

対訳

I stayed home because it rained.

雨が降ったので、私は家にいた。
この because 節は、家にいた理由を示している。

対訳

If it rains, I will stay home.

もし雨が降れば、私は家にいるだろう。
この if 節は、家にいることが成り立つ条件を示している。

because は理由、if は条件という違いを押さえよう。

なお、未来の条件を表す if 節でも、通常は will を使わず現在形を使う。上の例文では、if 節が it rains、主節が I will stay home となっている。

5. 譲歩を表す副詞節：although

定義

although は「〜だけれども」「〜にもかかわらず」という意味を表し、ある状況から予想される結果に反する内容が主節で起こることを示す副詞節を導く。

このような関係を**譲歩**という。

解説

対訳

Although she was tired, she studied.

彼女は疲れていたけれども、勉強した。
副詞節は Although she was tired（彼女は疲れていたけれども）、主節は she studied（彼女は勉強した）である。

「疲れている」という状況からは、「勉強せずに休む」という結果も予想される。しかし、実際には「勉強した」と述べている。

このように、ある状況を認めたうえで、それから予想される結果とは異なる内容を伝えるのが although の基本的な働きである。

譲歩は、単に 2 つの事柄が違うという意味ではない。

対訳

My bag is black, but her bag is white.

私のかばんは黒いが、彼女のかばんは白い。
この文は 2 つのかばんの色を対比している。しかし、「一方が黒ければ、もう一方も黒いはずだ」という予想があるわけではない。

一方、次の文では譲歩の関係が明確である。

対訳

Although it was cold, he went outside.

寒かったけれども、彼は外に出た。
「寒いので外に出るのを控えるかもしれない」という予想に反して、彼が外に出たことを表している。

although を選ぶときは、**副詞節の状況から予想されることと、主節で実際に述べられていることが食い違っているか**を確認しよう。

6. 副詞節の位置とカンマ

解説

副詞節は、基本的に主節の前にも後ろにも置くことができる。

次の 2 つの英文を比較しよう。

副詞節を前に置く場合

対訳

When I have time, I read books.

時間があるとき、私は本を読む。

副詞節を後ろに置く場合

対訳

I read books when I have time.

私は時間があるとき、本を読む。
どちらも「時間があるときに本を読む」という基本的な意味は同じである。

ただし、語順によってカンマの使い方が変わる。

副詞節を主節の前に置く場合は、通常、**副詞節の終わりにカンマ（,）を置く**。

一方、副詞節を主節の後ろに置く場合は、通常、カンマを置かない。ただし、although 節などでは、副詞節を後ろに置いてもカンマを置く書き方がある。when・because・if・although の副詞節はいずれも主節の前後に置けるが、カンマの使い方は一律ではない。

対訳

Because I was tired, I went to bed early.

疲れていたので、私は早く寝た。
対訳

I went to bed early because I was tired.

私は疲れていたので、早く寝た。
対訳

Although it was cold, I went outside.

寒かったけれども、私は外に出た。
対訳

I went outside although it was cold.

私は寒かったけれども、外に出た。
カンマの有無を判断するときは、まず副詞節が主節の前にあるか後ろにあるかを確認するとよい。

7. because・although と so・but の違い

注意

because と so、although と but は、意味に関係があるが、同じ働きの接続詞ではない。

because と so
対訳

Because I was tired, I went to bed early.

疲れていたので、私は早く寝た。
対訳

I was tired, so I went to bed early.

私は疲れていた。それで、早く寝た。
because は理由を表す従属節を導く。一方、so は「それで」という意味で、結果を述べる節を前の節につなぐ。

そのため、同じ理由と結果を結ぶときに、Because I was tired, so I went to bed early. のように because と so を重ねる形は、標準的な英文では避ける。

although と but
対訳

Although it was cold, I went outside.

寒かったけれども、私は外に出た。

対訳

It was cold, but I went outside.

寒かったが、私は外に出た。
although は譲歩を表す従属節を導く。一方、but は「しかし」「〜だが」という意味で、対比や逆接の関係にある語句や節を結ぶ。

同じ 2 つの節をつなぐときに、Although it was cold, but I went outside. のように although と but を重ねる形は、標準的な英文では避ける。

意味が似ていても、従属接続詞と so・but では文をつなぐ仕組みが異なることを押さえよう。

8. 副詞節を選ぶときの判断

ポイント

副詞節を選ぶ問題では、まず主節の内容を確認し、もう一方の節が何を説明しているかを考える。

意味関係	接続詞	判断の手がかり
時	when	主節の出来事が「いつ」起こるか
理由	because	主節の出来事が「なぜ」起こるか
条件	if	「どのような条件」で主節が成り立つか
譲歩	although	副詞節の状況から予想される結果に反して、主節の内容が成り立つか

たとえば、2 つの節が「疲れていた」「早く寝た」という内容なら、その間には理由と結果の関係が考えられる。

一方、「疲れていた」「それでも勉強した」という内容なら、譲歩の関係が考えられる。

接続詞の日本語訳を暗記するだけではなく、**主節と副詞節の意味関係を読み取り、その関係に合う接続詞を選ぶ**ことが重要である。



時を表す when「I wash my hands when I get home.」は帰宅時の手洗い、理由を表す because「I stayed home because I was sick.」は体調不良による在宅、条件を表す if「If it rains tomorrow, we will stay home.」は明日の雨が降るか未確定で、雨が降れば家にいるという条件、譲歩を表す although「Although she was tired, she studied.」は疲れて休むと予想される状況でも実際には勉強した場面として、4 つの意味関係を対照する。

例題

1

昨日早く家に帰った理由を説明する文になるように、空所に入る最も適切な語を選べ。

I went home early yesterday ( ) I felt sick.

A. when

B. because

C. if

D. although

解答・解説

正解：B. because

完成英文・全訳

I went home early yesterday because I felt sick.

私は体調が悪かったので、昨日早く家に帰った。

判断の手順

まず、空所の前後の内容を確認する。

主節の I went home early yesterday は「私は昨日早く家に帰った」という出来事を表している。

空所の後ろの I felt sick は「私は体調が悪かった」という内容である。

設問では、早く帰った「理由」を説明する必要がある。体調が悪かったことが早く帰った理由なので、「〜なので」という意味を表す because が適切である。

各選択肢の解説

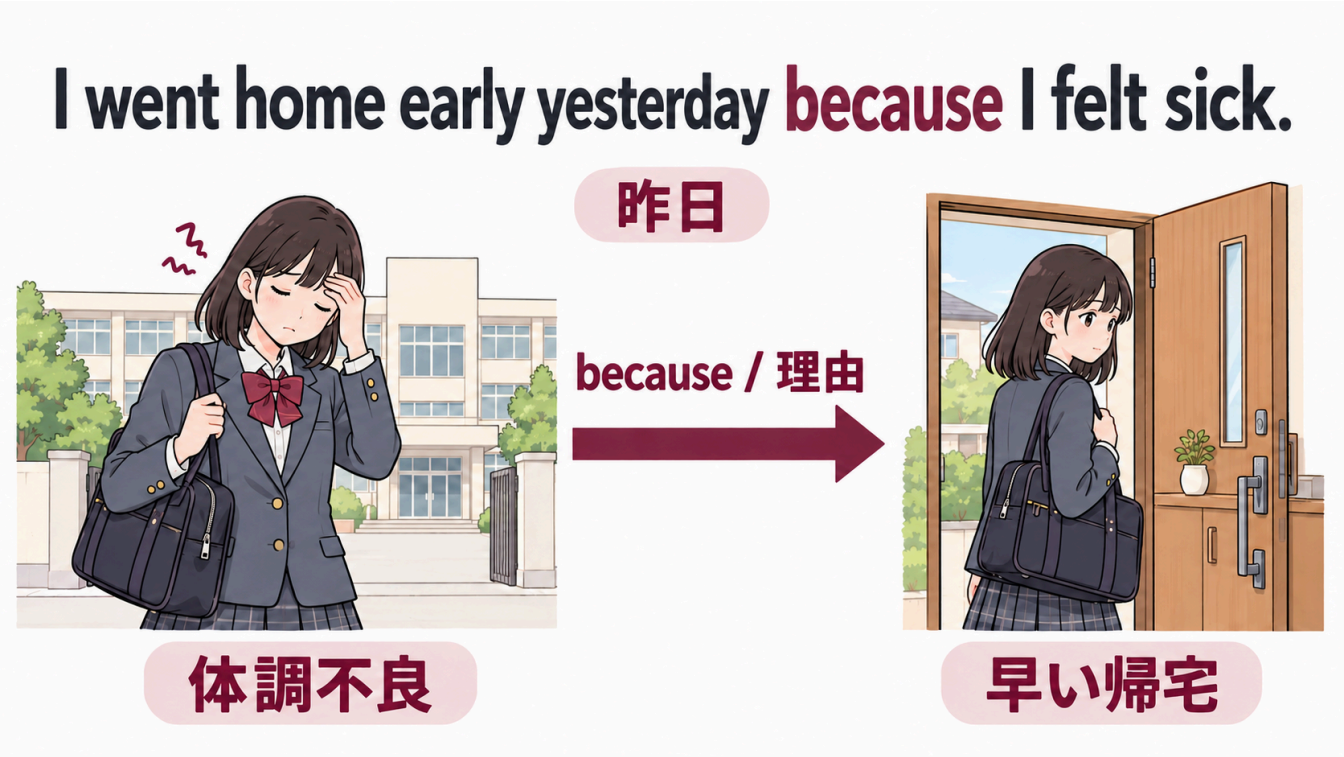
A. **when**：不正解。「〜するとき」という意味で、時を表す副詞節を導く。when I felt sick なら「体調が悪かったとき」となり、帰宅した時の状況を示すが、設問で求められている理由を直接説明しない。

B. **because**：正解。「〜なので」「〜だから」という意味で、理由を表す副詞節を導く。体調が悪かったことを、昨日早く帰った理由として説明できる。

C. **if**：不正解。「もし〜ならば」という意味で、条件を表す副詞節を導く。if I felt sick では体調が悪いことを条件として示すため、昨日実際に早く帰った理由を説明するという設問の指示に合わない。

D. **although**：不正解。「〜だけれども」という意味で、譲歩を表す副詞節を導く。although I felt sick なら「体調が悪かったけれども」という関係になり、体調が悪かったことを早く帰った理由として示す働きにはならない。

©ミライコーチング



体調が悪かったことを理由に、昨日早く家に帰った場面を表す。

2

昨日の出来事について述べた文である。雨が降っていたことは事実であり、その状況から予想される結果に反する出来事を表すように、空所に入る最も適切な語を選べ。

Yesterday, ( ) it was raining, we played soccer outside.

A. when

B. because

C. if

D. although

解答・解説

正解：D. although

完成英文・全訳

Yesterday, although it was raining, we played soccer outside.

昨日、雨が降っていたけれども、私たちは外でサッカーをした。

判断の手順

まず、空所の前後の内容を確認する。

空所の後ろの it was raining は「雨が降っていた」という意味であり、although と結び付いた although it was raining（雨が降っていたけれども）が副詞節、we played soccer outside（私たちは外でサッカーをした）が主節である。

次に、2 つの節の意味関係を考える。

雨が降っていれば、普通は外でサッカーをするのを控えると予想される。しかし、この文では実際に外でサッカーをしたことが述べられている。

また、設問では、雨が降っていたことも、外でサッカーをしたことも事実として扱っている。したがって、未確定の条件ではなく、予想される結果に反する出来事を示す必要がある。

このような譲歩の関係を表す接続詞は although である。

各選択肢の解説

A. **when**：不正解。「〜するとき」という意味で、時を表す副詞節を導く。when it was raining なら「雨が降っていたとき」となり、サッカーをした時の状況を示すことはできる。しかし、設問で求められている、雨が降っていたにもかかわらずサッカーをしたという譲歩の関係は直接表さない。

B. **because**：不正解。「〜なので」「〜だから」という意味で、理由を表す副詞節を導く。because it was raining なら「雨が降っていたので」となり、雨をサッカーをした理由として示すことになる。設問で指定された、雨による予想に反してサッカーをしたという関係に合わない。

C. **if**：不正解。「もし〜ならば」という意味で、条件を表す副詞節を導く。if it was raining なら「もし雨が降っていたなら」という条件を示す。if を使った文が過去の事実に触れることもあるが、この設問では雨が降っていたことを事実として示し、それにもかかわらずサッカーをしたという譲歩の関係を表す必要があるため、適切ではない。

D. **although**：正解。「〜だけれども」「〜にもかかわらず」という意味で、譲歩を表す副詞節を導く。although it was raining によって、雨が降っていたという事実を認めたうえで、その状況から予想される結果に反して外でサッカーをしたことを表せる。

演習問題

1

昨日の出来事について、玄関のベルが鳴ったときに何をしていたかを表す文になるように、空所に入る最も適切な語を選べ。

I was cooking dinner ( ) the doorbell rang.

A. if

B. because

C. when

D. although

2

昨日、海岸に到着した時点での空の様子を表す文になるように、空所に入る最も適切な語を選べ。

The sun was setting ( ) we reached the beach.

A. when

B. although

C. because

D. if

3

昨日の出来事について、窓を閉めた理由を説明する文になるように、空所に入る最も適切な語を選べ。

I closed the window ( ) the wind was strong.

A. although

B. when

C. if

D. because

4

昨夜実際に雨が降ったことを、道路がぬれていた理由として説明する文になるように、空所に入る最も適切な語を選べ。

The streets were wet ( ) it rained all night.

A. if

B. because

C. when

D. although

©ミライコーチング

5

明日の天気はまだ分からない。雨が降ればバスで行くという、未確定の条件を表す文になるように、空所に入る最も適切な語を選べ。

We will take the bus ( ) it rains tomorrow.

A. if

B. when

C. because

D. although

6

試着する前なので、上着のサイズが合うかは分からない。サイズが合えば購入するという、未確定の条件を表す文になるように、空所に入る最も適切な語を選べ。

I will buy the jacket ( ) it fits me.

A. because

B. although

C. when

D. if

7

昨日の試合について述べた文である。選手たちはとても疲れていたが、その状況から予想される結果に反して勝利したことを表すように、空所に入る最も適切な語を選べ。

We won the game ( ) we were very tired.

A. if

B. although

C. when

D. because

©ミライコーチング

8

昨日の出来事について述べた文である。かばんがとても重かったことは事実であり、持ち運ぶのは難しいという予想に反して、実際に運んだことを表すように、空所に入る最も適切な語を選べ。

She carried the bag ( ) it was very heavy.

A. when

B. because

C. although

D. if

演習問題の解答・解説

1

正解：C. when

完成英文・全訳

I was cooking dinner when the doorbell rang.

玄関のベルが鳴ったとき、私は夕食を作っていた。

判断の決め手

主節の I was cooking dinner は「私は夕食を作っていた」、空所の後ろの the doorbell rang は「玄関のベルが鳴った」という意味である。

設問では、玄関のベルが鳴ったときに何をしていたかを表す必要がある。夕食を作っている途中でベルが鳴ったという時間的な関係を示すため、「〜するとき」という意味の when が適切である。

各選択肢の解説

A. **if**：不正解。「もし〜ならば」という条件を表す。if the doorbell rang なら、ベルが鳴ることを条件として示すため、実際にベルが鳴った時点で何をしていたかを述べる設問の指示に合わない。

B. **because**：不正解。「〜なので」という理由を表す。because the doorbell rang なら、ベルが鳴ったことを夕食を作っていた理由として示すことになる。設問で求められている時間的な関係とは異なる。

C. **when**：正解。「〜するとき」という時を表す。when the doorbell rang によって、玄関のベルが鳴った時点で夕食を作っていたことを表せる。

D. **although**：不正解。「〜だけれども」という譲歩を表す。although the doorbell rang なら、ベルが鳴ったにもかかわらず夕食を作っていたという関係になる。時点を示すという設問の指示には合わない。

2

正解：A. when

完成英文・全訳

The sun was setting when we reached the beach.

私たちが海岸に着いたとき、太陽は沈みかけていた。

判断の決め手

主節の The sun was setting は「太陽は沈みかけていた」、空所の後ろの we reached the beach は「私たちは海岸に着いた」という意味である。

設問では、海岸に到着した時点での空の様子を表す必要がある。到着したときに太陽が沈みかけていたという時間的な関係なので、when が適切である。

また、was setting は過去のある時点で進行中だった様子を表している。when 節が、その時点を示している。

各選択肢の解説

A. **when**：正解。「〜するとき」という時を表す。when we reached the beach によって、海岸に到着した時点で太陽が沈みかけていたことを表せる。

B. **although**：不正解。「〜だけれども」という譲歩を表す。although we reached the beach なら、海岸に到着したという事実から予想される結果に反する内容を述べる形になる。しかし、海岸への到着と日没の間に、そのような予想に反する関係は示されていない。

C. **because**：不正解。「〜なので」という理由を表す。because we reached the beach なら、海岸に到着したことを太陽が沈みかけていた理由として示すことになる。到着時の空の様子を説明する設問の指示に合わない。

D. **if**：不正解。「もし〜ならば」という条件を表す。if we reached the beach なら、海岸への到着を条件として示すことになる。実際に到着した時点の空の様子を表すという設問の指示に合わない。

©ミライコーチング

3

正解：D. because

完成英文・全訳

I closed the window because the wind was strong.

風が強かったので、私は窓を閉めた。

判断の決め手

主節の I closed the window は「私は窓を閉めた」、空所の後ろの the wind was strong は「風が強かった」という意味である。

設問では、窓を閉めた理由を説明する必要がある。風が強かったことが窓を閉めた理由なので、「〜なので」という意味の because が適切である。

各選択肢の解説

A. **although**：不正解。「〜だけれども」という譲歩を表す。although the wind was strong なら、「風が強かったけれども」という関係になる。風が強いときに窓を閉めるのは自然な行動であり、予想に反する関係を示す設問ではない。

B. **when**：不正解。「〜するとき」という時を表す。when the wind was strong なら、「風が強かったとき」となり、窓を閉めた時の状況を示すことはできる。しかし、窓を閉めた理由を直接説明するという設問の指示には合わない。

C. **if**：不正解。「もし〜ならば」という条件を表す。if the wind was strong なら、風が強いことを条件として示す。過去の条件を表す文で使える場合もあるが、設問では実際に窓を閉めた理由を説明する必要があるため、適切ではない。

D. **because**：正解。「〜なので」という理由を表す。because the wind was strong によって、風が強かったことを窓を閉めた理由として説明できる。

©ミライコーチング

4

正解：B. because

完成英文・全訳

The streets were wet because it rained all night.

一晩中雨が降ったので、道路はぬれていた。

判断の決め手

主節の The streets were wet は「道路はぬれていた」、空所の後ろの it rained all night は「一晩中雨が降った」という意味である。

設問では、一晩中雨が降ったという事実を、道路がぬれていた理由として説明する必要がある。

雨が降ったことが道路のぬれていた理由なので、理由を表す because が適切である。

各選択肢の解説

A. **if**：不正解。「もし〜ならば」という条件を表す。if it rained all night なら、一晩中雨が降ったことを条件として示す。設問では実際に雨が降ったことを、道路がぬれていた理由として説明する必要があるため、適切ではない。

B. **because**：正解。「〜なので」という理由を表す。because it rained all night によって、一晩中雨が降ったことを道路がぬれていた理由として説明できる。

C. **when**：不正解。「〜するとき」という時を表す。when it rained all night なら、雨が降ったときの状況を示す表現になる。文脈によって使える場合はあるが、道路がぬれていた理由を直接説明するという設問の指示には合わない。

D. **although**：不正解。「〜だけれども」という譲歩を表す。although it rained all night なら、「一晩中雨が降ったけれども」という関係になる。しかし、雨が降った結果として道路がぬれるのは自然であり、予想に反する関係にはなっていない。

5

正解：A. if

完成英文・全訳

We will take the bus if it rains tomorrow.

もし明日雨が降れば、私たちはバスに乗るだろう。

判断の決め手

主節の We will take the bus は「私たちはバスに乗るだろう」、空所の後ろの it rains tomorrow は「明日雨が降る」という意味である。

設問では、明日の天気はまだ分からず、雨が降った場合の行動を述べる必要がある。

「雨が降る」という未確定の条件が成り立つ場合に、「バスに乗る」という行動を取るので、条件を表す if が適切である。

各選択肢の解説

A. **if**：正解。「もし〜ならば」という条件を表す。if it rains tomorrow によって、明日雨が降ればバスに乗るという条件と行動の関係を示せる。

B. **when**：不正解。「〜するとき」という時を表す。when it rains tomorrow なら、明日雨が降るときの行動を示す形になる。雨が降ることを前提とするような意味合いになり、降るかどうか分からない状況で条件を示すという設問の指示には合わない。

C. **because**：不正解。「〜なので」という理由を表す。because it rains tomorrow なら、明日雨が降ることをバスに乗る理由として示す形になる。雨が降るかどうか未確定であることを踏まえ、条件として述べるという設問の指示には合わない。

D. **although**：不正解。「〜だけれども」という譲歩を表す。although it rains tomorrow なら、明日雨が降る状況から予想される結果に反してバスに乗るという関係になる。雨が降ればバスに乗るという条件を表す設問の指示には合わない。

©ミライコーチング

6

正解：D. if

完成英文・全訳

I will buy the jacket if it fits me.

もしその上着のサイズが私に合えば、私はそれを買うつもりだ。

判断の決め手

主節の I will buy the jacket は「私はその上着を買うつもりだ」、空所の後ろの it fits me は「それが私に合う」という意味である。

設問では、まだ試着していないため、上着のサイズが合うかどうかは分かっていない。

「サイズが合う」という条件が成り立つ場合に、「上着を買う」という行動を取るので、条件を表す if が適切である。

各選択肢の解説

A. **because**：不正解。「〜なので」という理由を表す。because it fits me なら、サイズが合うことを購入の理由として示す形になる。しかし、設問ではサイズが合うかどうかはまだ分からないため、未確定の条件として述べる必要がある。

B. **although**：不正解。「〜だけれども」という譲歩を表す。although it fits me なら、サイズが合うにもかかわらず購入するという関係になる。サイズが合えば購入するという条件を表す設問の指示には合わない。

C. **when**：不正解。「〜するとき」という時を表す。when it fits me なら、上着のサイズが合うときに購入するという意味になる。文脈によって when が条件に近い意味を持つ場合もあるが、この設問ではサイズが合うかどうか分からないため、未確定の条件を明確に示す if が適切である。

D. **if**：正解。「もし〜ならば」という条件を表す。if it fits me によって、上着のサイズが合えば購入するという条件と行動の関係を示せる。

©ミライコーチング

7

正解：B. although

完成英文・全訳

We won the game although we were very tired.

私たちはとても疲れていたけれども、試合に勝った。

判断の決め手

主節の We won the game は「私たちは試合に勝った」、空所の後ろの we were very tired は「私たちはとても疲れていた」という意味である。

設問では、選手たちがとても疲れていたことと、試合に勝ったことの両方が事実として述べられている。

とても疲れていれば、十分に力を発揮できず、試合に勝つのは難しいと予想される。しかし、実際には勝利している。

このように、ある状況から予想される結果に反する出来事を表すため、譲歩の although が適切である。

各選択肢の解説

A. **if**：不正解。「もし〜ならば」という条件を表す。if we were very tired なら、疲れていたことを条件として示す。過去の事実に触れる if 節もあるが、設問では疲れていたという事実を認めたうえで、予想に反して勝利したことを表す必要があるため、適切ではない。

B. **although**：正解。「〜だけれども」「〜にもかかわらず」という譲歩を表す。although we were very tired によって、とても疲れていたにもかかわらず試合に勝ったという関係を示せる。

C. **when**：不正解。「〜するとき」という時を表す。when we were very tired なら、とても疲れていたときに試合に勝ったという時間的な関係を示せる。しかし、疲れていた状況から予想される結果に反して勝利したことを直接表すものではない。

D. **because**：不正解。「〜なので」という理由を表す。because we were very tired なら、とても疲れていたことを勝利した理由として示す形になる。設問では疲れていたことを勝利の理由ではなく、勝利を難しくすると予想される状況として扱っているため、適切ではない。

8

正解：C. although

完成英文・全訳

She carried the bag although it was very heavy.

そのかばんはとても重かったけれども、彼女はそれを運んだ。

判断の決め手

主節の She carried the bag は「彼女はそのかばんを運んだ」、空所の後ろの it was very heavy は「それはとても重かった」という意味である。

設問では、かばんがとても重かったことと、彼女が実際にそれを運んだことの両方が事実として述べられている。

かばんがとても重ければ、運ぶのは難しく、持ち運ぶのを諦めることも予想される。しかし、彼女は実際にそのかばんを運んでいる。

重かったという状況から予想される結果に反して運んだことを表すため、譲歩の although が適切である。

各選択肢の解説

A. **when**：不正解。「〜するとき」という時を表す。when it was very heavy なら、かばんがとても重かったときに運んだという時間的な関係を示す形になる。しかし、重さによって運ぶのが難しいという予想に反して運んだことを直接表すものではない。

B. **because**：不正解。「〜なので」という理由を表す。because it was very heavy なら、かばんがとても重かったことを運んだ理由として示すことになる。文脈によってそのような理由が成り立つ場合もあるが、設問では重さを運ぶのが難しいと予想される状況として扱っているため、適切ではない。

C. **although**：正解。「〜だけれども」「〜にもかかわらず」という譲歩を表す。although it was very heavy によって、かばんがとても重かったにもかかわらず、彼女がそれを運んだという関係を示せる。

D. **if**：不正解。「もし〜ならば」という条件を表す。if it was very heavy なら、かばんがとても重かったことを条件として示す。if が過去の事実に関わる内容を表す場合もあるが、設問ではかばんが重かったことを事実として示し、その状況から予想される結果に反して運んだことを表す必要があるため、適切ではない。



重いかばんは運べなさそうだという予想と、彼女が実際にそのかばんを運んだ結果を対比する。